

ただいま議題となりました 議案第 54 号平成 25 年度鎌倉市一般会計補正予算について、神奈川ネットワーク運動・鎌倉を代表し、賛成の立場から討論いたします。本補正予算、第 4 5 款土木費、第 2 0 項都市計画費の交通体系整備事業に係る経費について意見を申し上げます。

この経費約 4 4 3 万 9 千円は、**鎌倉市の交通渋滞の特異日において公共交通の利用促進に向けた社会実験を行うためのものです。**新規循環バスの実証運行と交通渋滞等の情報提供により、公共交通の利用促進を図り、自動車の利用の自主的な抑制を促す、ということですが、

具体的には、①平成 2 6 年 5 月 3 日～5 日の 3 日間、バス車両を借り上げ、

②鎌倉駅から県道金沢鎌倉線経由で浄明寺ハイランドまでは在来の路線バスの路線を、その後逗子市久木から大町に至る区間は県道 311 号鎌倉葉山線を経由して鎌倉駅に至る循環ルートを、

③午前 1 0 時から午後 4 時の間、1 時間に 2 , 3 本の間隔で走らせる、というものです。

社会実験として行う事業ですので、主要なバス停や交差点などのチェックポイントや全ての循環バスの車中に調査員を配置して、人海戦術で所要時間や利用者数をチェックするほか、循環バスの車中で調査票を乗客に配ってアンケート調査を行う、と聞いています。

鎌倉市は全国に先駆けて交通政策としての社会実験を行った自治体で、鎌倉市の取り組みを受けて国交省も社会実験を施策の中に位置づけました。渋滞対策は鎌倉市において長年の課題です。積極的な取り組み姿勢は評価したいところです。この事業も専門家や市民からなる交通計画検討委員会で練られてきたものかどうか聞いています。

しかし、この事業は、**平成 2 5 年度の国交省の社会実験制度に選定されなかった**ことから、市費によって行なうことになって、今回の補正予算に組み込まれたものです。果たして全額を市費でまかなってまで行すべき実験かどうか、懸念を抱かざるを得ない点を、2 点に絞って述べさせていただきます。

(1) はじめに、この新規循環バスのルートは鎌倉市が購入している主要道路の渋滞データを参考に考えた、ということですが、ハイライドの住宅街の中の区間はこのデータに含まれていません。実際は、現在はほとんどの車がナビゲーショ

ン・システムを搭載しているため、交通渋滞の特異日に金沢街道が泉水橋、青砥あたりまで混んで来ると、市外からの流入車はハイランドへ迂回してきて、ハイランドの逗子側が大渋滞となります。公共車両優先システムP T P Sを全ての循環バスに搭載して赤信号に引っかからないようにする、とのことですが、新規ルートには横須賀線の踏切もあります。

新規循環ルートと従来路線の所要時間を比較するというのが実験の目的の一つですが、新規循環ルート自体が渋滞するおそれがある、と言う指摘をハイランドの住民の方からいただいております。このことがまず1点です。

(2) 次に、第1点とも関連しますが、社会実験の実施計画を練るにあたっては、先ず利用対象地域の住民からヒアリングを行なうべきであったことを指摘させていただきます。私はこの補正予算案を目にしてから、自治会幹部を含む6名の住民の方からヒアリングをしましたが、どの方もこの事業の渋滞の状況把握と利便性向上に疑問を呈されていました。今後実験実施に先立ち住民への周知を積極的に行うと聞いていますが、むしろ立案段階で住民からの意見聴取に力をいれるべきではなかったでしょうか。住民とのコミュニケーションに関して懸念があるというのが第二点です。

最後に要望として付け加えます。

444万円という額は決して少額ではありませんので、実験の内容を、必要な実験であるかどうかも含めてよく精査してください。その際、利用対象エリアの住民の声に耳を傾けてください。圧縮できる経費は圧縮するとともに、実験を行った場合、その後本格的な実施に移行すべきかどうかの判断においては、データを広く公開した上、厳正な判断をすることを求めます。

交通計画検討委員会（専門部会）では、渋滞ピーク時の乗り入れ規制も検討されていると聞きます。鎌倉市民の交通環境の向上策として何が最適か、市民ニーズの把握に努め、費用対効果も含めて判断されることを要望して討論を終わります。